

横浜詩人会通信



☆

2015.4.1

No.294

横浜詩人会事務局 横浜市西区境之谷 30-19 油本方 TEL045-516-3182
発行人 中上哲夫(会長) 横浜市鶴見区馬場 7-28-15-1

連日、テロのニュースがマスメディアにあふれていて、心が暗くなる。テロといっても、「イスラム国」ばかりでなく、局地的な戦闘からギャングの抗争、喧嘩、ストーカー、家庭内暴力に至るまで、まるで暴力がこの世界を支配しているかのようなのだ。

そんなニュースにふれるたびに、ますます暗い気持ちになってわたしは行き暮れてしまうのだ。「行き暮れる」というのは、画家の野見山暁治が3・11のあと三陸海岸を訪れたとき、瓦礫の山に漁船が乗り上げているのを目にして思わ



テロ時代の詩人の役割
——再任の言葉
中上哲夫会長



新理事の抱負

ずもらした言葉。

事実、こんな時代に詩人になることができるかと考えると暗澹たる気持ちになる。

記憶が定かでなくて申し訳ないのだけど、確か南米のどこかの国にこんな民話があった。

あるとき、ある森で火事が起こった。動物たちは、火を消すどころかわれ先に逃げ出した。そのとき、一羽の鳥が飛んできて口にくんだ水を燃える森の上に垂らした。それを見て、動物たちはみなばかりにして笑った。そんなことをしてなんになるのかと。

しかし、鳥は遠くまで飛んでいって口に水をふくんでくると燃え盛る森の上に水滴を滴らしつづけた。いつまでもいつまでも。

この話は身につまされる。まるで詩人のことをいっているみたいではないか。

南米つながりで、ブラジルといえば、かつて十八万人収容するサッカー場もあったほどのサッカー王国。十八万人なんて簡単にいうけど、鳥取や松江などの県庁所在

地の人口が二十万人ほどである。話が横道にそれてしまったけど、ファンが煉瓦をひとつひとつ運んでてつくったという手造りのスタジアムがブラジルにある。噂によると、煉瓦はどこかの工事現場から黙って持ってきたものらしいのだ。そのことはあんまり感心のできる話ではないと思うけれど。

横浜詩人会は、会員ひとりひとりが煉瓦を積んで造り上げるスタジアムのようなものだと思う。塵も積もれば山となる。千里の道も一歩から。煉瓦をひとつひとつ積んでいけば、横浜詩人会もいつの日か巨大なスタジアムにならないとだれにいえるだろうか。煉瓦を盗んできてはいけないけれども。

ごそんじのように、現代詩セミナーと夏の朗読会と詩人会賞が、横浜詩人会の三本柱。そして、主役はむしろ会員たち。理事たちがいくら旗をふっても、会員たちの理解と協力がえられなければ画餅絵に描いた餅だ。願わくば、どんな建設的な意見が出て、みなさんが詩人会のイベントに積極的に参加したくなるような雰囲気をつくっていききたいと。どうぞよろしく。

「近頃はテロの問題があり、過去阪神淡路大震災、3・11などがありました。また最近はイスラム国による人質事件がありました。そういう時世で、詩が書きにくい

にぎわう新年会



乾杯の音頭をとる平林敏彦氏

司会は前半が西村理事、後半は植木理事が担当しました。

恒例の乾杯の音頭は平林敏彦さんのショートスピーチの後、行われました。



挨拶をのべる丸山神奈川新聞文化部長

という話もありますが、それは嘘ではないのか、と思えます。伝えるために詩を書くにつらくなることが詩であるのではないでしょうかと平林さんは話されました。続いて詩人会賞の一部出資もしていたらいいのかもしれないと丸山孝文化部長から挨拶の言葉をいただきました。

「久しぶりに大学の文学部の友人に会いました。彼は詩の専攻をしていました。いまは不動産業をしていますが、まだ詩を書いているとのこと。彼に詩人会の話をする



写真左から、新入会の飛松、洲、小桜、佐相、下川各氏

と「このような詩の会が存続していることに驚いた。さすが横浜だ」と言っていました。厳しい状況でもありますが活動を続けていってほしい。またなかには創作

「久しぶりに大学の文学部の友人に会いました。彼は詩の専攻をしていました。いまは不動産業をしていますが、まだ詩を書いているとのこと。彼に詩人会の話をする

植木肖太郎理事の話や歓談の間も挟み、なごやかな雰囲気なのか、出席者の全員の話にみなが耳を傾けながら、食事や美酒を楽しみました。

(撮影・小桜/記事・光富)

2015年度横浜詩人会 総会・新年会が開催される!!

2015年2月15日(日)午後1時から桜木町駅近くのブリーズベイホテルにて、恒例の横浜詩人会総会・新年会が開催されました。

総会の司会は油本理事長が務めました。挨拶で、中上会長は「悲惨な事柄が多い昨今です。その一方、詩人は夢を見ているようです。夢から覚めたら詩をやめるのかな。詩は非力ですね」と始めました。



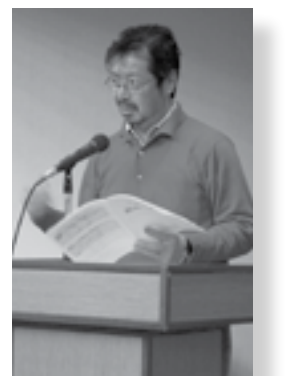
挨拶をする中上会長 総会の司会・油本理事長

み上げてサッカー場を作ったそうです。横浜詩人会でも、皆で詩を書いて、レングを積み上げるように会を作っていた方がいい」と話を結びました。



議事を進める藤森議長

- 総会では43名が出席、48名の委任状提出で、半数を超えました。
- 総会議長に藤森重紀さんが選出されました。藤森議長は進行で、2014年度の事業報告について油本理事長が報告。
- 2月・総会・新年会
- 5月・現代詩公開セミナー「現代詩と落語」講師・八木忠栄 落語一席・金原亭馬治
- 7月・第5回「楽」詩画展
- 7-8月・第46回横浜詩人会賞選考
- 8月・朗読会「夏のさかりの詩とジャズ」(ドルフィンにて)ピ アノ・田中信正
- 10月・詩人会賞授賞式
- 受賞・阿部はるみ『幻の木の実』



会計報告中の日野理事

- 神奈川新聞への詩の連載(月4回) テーマは「手紙」
- 横浜詩人会通信の発行(2905293号)
- 横浜詩人会のホームページの運営・更新
- 第7次ネプチューンシリーズの刊行(現在2冊)
- 2014年度決算を会計担当の日野理事が報告しました。決算書の説明、年会費の口座振込について、ほとんどの会員にきちんと会費をお支払いいただいたこと、横浜詩人会基金の寄付のお願いなどを話されました。
- 浅野章子会計監査が事情により欠席のため、油本理事長の代読により、監査報告。
- 各理事の報告は会員の拍手をもつて承認されました。
- 引き続き、2015年度事業計画が油本理事長から報告されました。以下の内容となりました。

- 2月・総会・新年会
- 6月・現代詩公開セミナー「教科書の詩」(仮題) 講師未定
- 7月・第5回「楽」詩画展
- 7-8月・第47回横浜詩人会賞選考
- 8月・朗読会「夏のさかりの詩とジャズ」(ドルフィンにて)
- 10月・詩人会賞授賞式
- 第7次ネプチューンシリーズ刊行(前年度に引き続き)
- 神奈川新聞への詩の連載(月4回) テーマは「手紙」
- 横浜の詩史に関する調査・研究(準備)
- 横浜詩人会通信の発行(2945297号)
- 横浜詩人会のホームページの運営・更新/会員詩書の紹介
- 「横浜文芸懇話会」の構成団体としての活動
- 新会員の勧誘
- 「楽」詩画展は、田澤氏逝去のため、今後の検討課題とする。
- 続けて2015年度予算案について、日野会計理事から報告があり、それに対して質疑応答がありました。総会は滞りなく進行し、各報告は会員の拍手によって承認となり、無事に閉会となりました。